

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

こどもの病気対策法⑥9

— 子どもの生活習慣病予防 —

大分大学地域医療・小児科分野 是松 聖 悟

生活習慣病は、かつては成人病と呼ばれていた、食事、運動、喫煙、飲酒などの生活習慣の悪化が発症に関与している病気で、具体的には、糖尿病、高コレステロール血症、脳梗塞、心筋梗塞、狭心症などが挙げられます。そのなかで「子どもの生活習慣病？」と疑問に思われるかもしれませんが、近年、肥満、痩せ、テレビやゲームの習慣、遅寝、朝食抜きなどの生活リズムの問題によって、生活習慣病の前段階と考えられる子どもが増えています。2005年の文科省の調査では、9～14歳の男女の10%前後が肥満傾向であり、その率は30年前の3～4倍になっているとされ



ています。また、小学生の15～20%は高コレステロール血症となっている、驚きの事実も報告されています。

そんな中で、九州地区医師会学校検診協議会では、学校検診に生活習慣病検診を組み込むことを提案しています。学校検診の際に、肥満度プラス30%、または、マイナス20%の子どもに病院を受診するように勧めて欲しいとするものです。

大分県では、大分市が20年以上前から小学5年生に採血をして、コレステロールや肝機能をチェックしてきました。すると、痩せている子どもの中にも高コレステロール血症があることが分かりました。津久見市では、採血までは難しいかもしれませんが、肥満度を計算して、学校医の先生に相談してもらうようにするだけでも、これらの子どもが将来の生活習慣病から守られることになるはずです。

津久見市における学校生活習慣病検診の提案

目的

近年、小児の肥満や高脂血症、糖尿病などが著しく増加。

小児期からの肥満予防は生活習慣病予防として重要視されている。

生活習慣病は、ライフスタイルの形成段階の時期から対応する必要。



学校での身体測定(身長・体重)。

心臓病検診の対象学年である小学校1年生、中学校1年生に、小学校5年生も加える。



肥満度 +30%以上または、-20%未満



医療機関への受診を勧める。



医療機関にて保険診療

問診

腹囲

血圧

血液検査(Alb、AST、ALT、γ-GTP、
総/LDL/HDLコレステロール、
中性脂肪、血糖、HbA1c、尿酸)

検尿

行政・教育・
医療機関等で、
栄養、生活習慣の相談

注:津久見中央病院にて、「こどもの病気に関するミニ講演会」を月1回(原則第3木曜日17時～17時半)に開催しています。参加自由です。
また、津久見市では、「こどもの病気とその対策法フローチャート」を発行しています。ご必要の方は、津久見市役所健康推進課 ☎82-9523